

## Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。6年はペアで伝え合うことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

### 話題1 名前だけでは、まだ何も伝わっていない（第6時）

板書：My treasure is ～. + わけの1文（I like ～. / I'm good at ～.） [glove の絵カード]

**T** My treasure is my old glove. That's all.

先生のたからものは、この古いグローブです。以上です。（そこで話をやめて、だまって子どもを見る）

**S** ...?

（「え、それだけ？」という顔になる。「もっと聞きたいことある？」と日本語でたずねる）

**T** I like baseball. I play every Sunday.

（たからものの文から言い直して）野球が好きです。1文足すだけで、同じグローブの話が急に伝わる

**T** Your turn. Say your treasure and one more sentence.

みんなの番。たからものを言ったら、わけを1文足す（ペアで1回ずつ）

**S** My treasure is my bicycle. I like my town.

（足す1文は I like ～. でも I'm good at ～. でもよい）

つまった子への助け舟：わけが出ない子には「いつつかうの？」と日本語でたずね、答えを先生が I like ～. の形にのせて返す。

### 話題2 たからものは、ものじゃなくてもいい（第7時）

板書：My treasure is ～. [黒板に「もの／人／場所／時間」の4つを書く]

**T** I have one more treasure. It is Sunday.

先生にはもう1つたからものがあります。日曜日です。

**S** ...?

（「日曜日？ ものじゃないの？」とざわつく。ここが今日の5分の山）

**T** I play baseball with my father on Sunday.

日曜日に父と野球をするんです。だから日曜日がたからもの。（黒板の4つを指す）

**T** How about you? Tell your partner.

（黒板の4つを指して）ものじゃないたからものがある人？ ペアで1つずつ話そう

**S** My treasure is my grandmother. I like her.

（人・場所・時間でよい。見せられる持ち物が思いつかない子が、ここで入ってこられる）

つまった子への助け舟：「たからものがない」と言う子には、毎日つかうもの・好きな場所・楽しい時間の3つから選ばせる。

## 中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

伝え合い①の1回目で、たからものの名前だけで終わった話が多かったら（だれが、とはたずねない・手もあげさせない）→ 黒板の My treasure is ～. の下に、わけの1文を書く場所として横線を1本引く。ふやすのはこの1行だけ。この線は第8時のテストの日まで消さない——テストで名前だけで止まった子が、目でここを探して自分でもう1文足せるようにするため。（活動シート2の中間指導台本は「聞く人」の補給。こちらは「話す人」の1文——同じ20分の7～9分でどちらを取り上げるかは、1回目で止まっていたほうを選ぶ）

### 対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| はじめる   | Hello! / How are you?            |
| くり返す   | Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）    |
| ひとこと感想 | Nice! / Wow! / Really? / Good!   |
| たしかめる  | Pardon? / One more time, please. |
| さらに質問  | How about you? / Why?            |
| おわる    | Thank you. / See you!            |

#### 先生へ

- ・6年最初のペア中心の単元。先生の話は1分で切り上げ、ペアの時間を2回確保する。ただし話題1で先生がだまる数秒だけは急がない——その沈黙が仕掛けそのもの
- ・話題1の仕掛けは「まちがっていないのに伝わらない」こと。My treasure is my old glove. は文として完べきで、それでも聞いた人は何も知らない。だから子どもは日本語でしか説明できない——それでよい。言い直すとき1文目はさっきとまったく同じにする（変えたのは足した1文だけ、と目で見せるため）
- ・話題2は、見せられる持ち物が思いつかない子のための5分。先生が先に「ものじゃないたからもの」を出しておく、その子が場所や時間で話に入ってこられる（先生が日曜日を挙げたあとなら言い出しやすい）。ここを飛ばすと第8時のテストで固まる子が出る

